

令和7年度高志ワークホーム地域連携推進会議 議事録

- 1 日時 令和7年7月22日（火）13:30～16:15
- 2 場所 旧高志リハビリテーション病院2階研修室1

3 出席者（委員）

高志ワーク自治会会長
高志ワーク望岳会会長
針原地区社会福祉協議会会長
針原地域包括支援センター管理者
特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長

（職員）

高志ワークホーム・高志ワークセンター・高志生活訓練センター所長
高志福祉相談センター所長
高志ワークホーム支援課長
高志ワークセンター所長代理
高志生活訓練センター所長代理
高志ワークホーム主任
高志生活訓練センター生活支援員

4 内容

（1）開会・挨拶

- ・所長から、地域連携推進会議の趣旨、目的などについて挨拶
- ・事務局から本日の流れ、個人情報秘密保持、議事録の作成・公表について説明

（2）出席者紹介

- ・事務局から出席者を紹介

（3）事業内容説明1

- ・入所施設の高志ワークホームに加え、連携して運営している通所事業所の高志ワークセンターと高志生活訓練センターについて、事務局から資料に基づき説明
- ① 施設・サービス概要
 - ・沿革、サービス概要、日中活動、職員配置について
- ② 利用状況
 - ・利用者の年齢層、利用期間、障害特性等について

(4) 意見交換1

○針原地区社会福祉協議会会長：女性利用者が少ないのには理由がありますか？

- ・高志ワークホーム支援課長：高志ワークホームは、以前から男性利用者が多い傾向です。
- ・高志ワーク所長：高志ワークセンター利用者に男性が多いのは、男性が興味を示しやすい作業内容であることが考えられます。

○針原地域包括支援センター管理者：障害により個人差や特性が違う中で、作業部門の振り分けはどうされていますか？またどのように対応されていますか？

- ・高志ワークホーム支援課長：体験期間を設けて作業を体験してもらっています。体験の中で適正を見極め、作業部門の振り分けを行っています。
- ・高志ワークセンター所長代理：周りが気になる利用者には、パーテーションで仕切り働きやすい環境作りを心掛けています。

○高志ワーク望岳会会長：毎日何回送迎をしていますか？

- ・高志ワークセンター所長代理：送迎希望者が多いので、朝夕ともに1コース当たり2往復しています。

○高志ワーク自治会会長：送迎専用の運転手を雇わないのですか？

- ・高志ワーク所長：今後も送迎希望者が増え続けていけば検討する必要があると考えています。収支状況をみながら、利用者の作業時間の確保、職員の健康管理についても加味したうえで判断していきます。

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：富山市以外の出身の入所者は、いますか？またその入所者は、退所後出身地に戻られますか？

- ・高志ワークホーム支援課長：何人かいます。出身地に戻りたいと希望されている利用者はいますが、障害福祉サービスの地域格差もあり、富山市内に住む方もいます。

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：入所者は買い物はどうされていますか？希望者が行くのですか？

- ・高志ワークホーム支援課長：月2回、希望者を募り買い物支援として、ドラッグストア、商業施設の服屋や本屋などへ行っています。その他、家族と出かけたり、ひとりで交通機関を利用し買い物へ行ったりしています。

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：入所者は外泊されることはありますか？

- ・高志ワークホーム支援課長：外出・外泊に制限は設けておりませんが、高齢化や重度化などの身体的理由により外出する機会は減っています。外泊においては毎週帰宅される利用者もいますし、お盆やお正月には7～8人ほど帰宅されています。

（５）事業内容説明２

① 運営状況

- ・利用者参加の会議、職員会議、各種委員会、職員研修や訓練について
- ・健康管理、各種行事について

（６）意見交換２

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：能登半島地震では、EVが停まり他施設では車イス利用者を職員が1階から2階へ運んだと聞きました。車イスの利用者が避難するのは大変だと思うので、スロープの設置はしないのですか？

- ・高志ワークホーム支援課長：能登半島地震の時は、地域住民の方が高志ワークホームへ避難に来られました。地震の影響は少なくて済みましたが、火災発生時は火元から離れたところへ逃げるか、ベランダで救助を待つことになっているのが現状です。
- ・高志ワーク所長：スロープの設置は建物の構造上難しいと思います。津波においては、3階にいる入所者の安全は確保できますが、高志ワークセンター利用者は1階で作業しているので、EVが停止した場合、高台への避難が必要であれば2階や3階へ職員が協力して利用者を運ぶことになると考えています。

○針原地域包括支援センター管理者：避難訓練を行う際は、外部の方に告知していますか？夜間の災害であれば、職員もすぐに応援に来られないこともあるので、地域住民の方にも日頃から訓練に参加していただき、見守りなどの協力をしてもらってはどうか。

- ・高志ワーク所長：避難訓練は消防署が立ち合うことはありますが、法人内部で行っております。今後の参考とさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございます。

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：高志ワークは、指定緊急避難場所ですか？災害では予想外のことが起きると聞いています。日頃から災害に備えてください。

- ・高志ワーク所長：指定緊急避難場所とはなっておりません。ハード面の整備についてはできる範囲は限られていますので、ソフト面でできることを行っていくしかないと考えています。そのための様々な災害を想定した訓練や研修を実施しており、今後も

行っていく必要があると思っています。

○高志ワーク自治会会長：「ふれあいデイ」と記載あるが、今はやっていないのでは？

- ・高志ワークホーム支援課長：高志ワークホームに限りこれまで年に一度、利用者が一斉に行っていた「日帰りバスハイク」を今年度は「所外活動（少人数の利用者ごとに希望する場所へ行く）」に変更しました。また、「ふれあいデイ」を再開し、9/23の祝日の午前中に施設内で開催を予定しています。地域住民の方へも告知させていただいて、可能であれば参加いただき交流の場となればと思っております。

（７）事業内容説明 3

①利用者の権利擁護

- ・令和６年度の事故報告・ヒヤリハット報告、苦情処理の対応について
- ・成年後見制度の活用について

（８）意見交換 3

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：転倒した利用者の意識として「自分が悪い」と思っているのかどうかと思うことがあります。私には訪問リハビリの先生がいます。リハビリ中に私が転ぶと先生から「転ばせて申し訳ない」と言われます。でも私は、先生がいない時でも転ぶので、転倒は自分の責任だと思っています。世の中には転倒を人のせいだと言う人がいますが、働いていて不当なことを言われることはないですか？

- ・高志福祉相談センター所長：「職員の見守りが不十分だった」などの転倒に対する苦情は、今のところありません。
- ・針原地域包括支援センター管理者：高齢者も転倒が多いです。家や外出先での転倒もあります。地域包括支援センターには直接苦情は入ってきていないですが、施設内での転倒については、契約の時に転倒のリスクを十分にご家族やご本人へ説明しております。

○針原地域包括支援センター管理者：施設入所している利用者で、何人か成年後見人がついている背景をみると、入所当初はキーパーソンがいて、時代とともに家族も高齢化していき、成年後見人へ移行せざるえない状況であるのかなと思いました。今後も増えていく見通しですか？成年後見人は市長申し立てですか？

- ・高志ワークホーム支援課長：成年後見人の利用は増えていくと思います。市長申し立てです。親の高齢化と兄弟の関係性が整っている家族ばかりではないことで、キーパーソンの確保は今後の課題となっています。

(9) 施設見学

高志ワークホーム、高志ワークセンター、高志生活訓練センターにおける利用者の日常生活や活動の場の状況を見学。

(10) 質疑応答・意見交換

○針原地区社会福祉協議会会長：作業場を見学して難しい作業をされていると思いました。焼き芋はどこで販売していますか？

・高志ワークセンター所長代理：コロナ前は県リハ病院でも販売していましたが、現在は予約販売しています。主に外部の施設のお客さんで、法人内の職員へも販売しています。お芋は壺で時間をかけてねっとりとした甘い蜜がでるように焼いております。安価で提供しておりますので是非ご賞味ください。

・高志ワーク所長：注文票もお送りします。配達もさせていただきます。

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：見学をして授産施設のときから在籍している人が僅かだったので、世代交代を感じました。作業も、いろんな職種があって選べるといいと思いました。外国では、作業は効率化（オートメーション化）され、パラグライダーの部品を作ったり、子供のおもちゃを作ったり楽しそうでした。オートメーション化には経費もかかると思うのですが、いずれ細かな作業は日本もオートメーション化できたらいいと思いました。

・高志ワークセンター所長代理：利用者がもっと楽に仕事できるように考えて行かなければと思っています。

○特定非営利活動法人自立生活支援センター富山理事長：法人施設の一部を開放的にして、地域の方と触れ合う場所があればいいと感じました。

・高志ワークホーム支援課長：地域連携推進会議は今回初めての取り組みですので、少しずつ考え方を変えて、どうすればできるかを考えて実践していければと思っています。またご協力よろしくお願いいたします。

○望岳会会長：高志ワークホームは見学したことがなかったので、いい経験でした。作業では納期もあり、送迎業務もある中で大変だと思います。私の家族も最初は運転できていましたが、高齢化もあり送迎を依頼しました。だんだんと送迎利用者が増えていくので大変だと思いますが、望岳会の役員として行事など協力できることはしていきたいと思っています。

○針原地区社会福祉協議会会長：高齢者の福祉ばかりに目が行きがちでしたし、地域でも障害の方と関わる機会もありませんでした。高齢者だけではなく障害の方もたくさん

いらっしゃるので、今後どのようにして私たち地域として関わっていければいいのかと思っています。今後、少しでもお役に立てればと思っております。

(11) 閉会

所長から、いただいたご意見は今後の事業運営に活かしていきたい、地域と連携を深めるため引き続き意見を伺いたい旨の挨拶の後、閉会。